

<概要>

昭和61年度においては、[原子力発電所](#)の時間稼働率は76.9%、[設備利用率](#)は75.7%であった。

<更新年月>

1998年05月 (本データは原則として更新対象外とします。)

<本文>

昭和61年度においては、日本原子力発電（株）敦賀発電所2号機（116万kW）1基が新たに営業運転を開始した。この結果、昭和61年度において全国の営業運転中の電気事業用の原子力発電所の数は33基、設備容量は2,568.1万kWとなった。

我が国の電気事業用の原子力発電所は、昭和41年に商業用原子力発電所が初めて運転を開始して以来、昭和50年前後に初期トラブルや[応力腐食割れ（SCC）](#)等のため、設備利用率は40～50%程度と低迷した。その後、設備の改善等を実施し、昭和55年度以降は順調に推移し、昭和61年度は75.7%と良好な実績であった（[表1](#)参照）。また、設備利用率については、先進国の中でも良好な成績を示している。

なお、昭和61年度の電気事業用の原子力発電所の発電電力量は約1,673億kWhに達し、電気事業用の年間発電電力量の約28%を占めるに至っている。

また時間稼働率については [表2](#) 及び [表3](#) に示すように平均で76.9%であった。

<関連タイトル>

[日本の原子力発電所の時間稼働率の推移（2004年度まで）（02-05-02-01）](#)

[日本の原子力発電所の設備利用率の推移（2004年度まで）（02-05-02-02）](#)

[昭和61年度原子力発電所の事故・故障（12-01-02-08）](#)

<参考文献>

(1) 原子力委員会編（1987）：我が国の原子力発電所時間稼働率及び設備利用率（過去10年間）、昭和62年版原子力白書、430-433.

(2) （社）火力原子力発電技術協会（1987）：原子力発電所の運転状況、昭和62年版（昭和61年度実績）原子力発電所運転管理年報、17-184.

(3) （社）火力原子力発電技術協会（1987）：ユニット別設備利用率、ユニット別設備稼働率、昭和62年版原子力発電所運転管理年報、44-118.

(4) 科学技術庁原子力安全局編（1987）：我が国原子力発電所の設備利用率、我が国の原子力発電の原子力発電所の時間稼働率、原子力安全委員会月報.

表1 設備利用率

(単位：%)

炉型	BWR	PWR	GCR	計
昭和61年度	75.9	75.8	63.4	75.7

表2 時間稼働率

(単位：%)

炉型	BWR	PWR	GCR	計
昭和61年度	76.9	76.9	77.9	76.9

表1 設備利用率

(単位：%)

炉型	BWR	PWR	GCR	計
昭和61年度	75.9	75.8	63.4	75.7

表2 時間稼働率

(単位：%)

炉型	BWR	PWR	GCR	計
昭和61年度	76.9	76.9	77.9	76.9

表3 我が国の原子力発電所の時間稼働率及び設備利用率（昭和61年度）

設置者	発電所名（運開年月日）	認可出力（MW）	時間稼働率	設備利用率
日本原子力発電	東海（1966. 7. 25）	166	77.9	63.4
	東海第二（1978. 11. 28）	1,100	82.3	81.2
	敦賀1号（1970. 3. 14）	357	79.1	77.2
	敦賀2号（1987. 2. 17）	1,160	※ 100	99.3
東北電力	女川原子力1号（1984. 6. 1）	524	78.4	77.2
東京電力	福島第一原子力1号（1971. 3. 26）	460	66.6	65.9
	福島第一原子力2号（1974. 7. 18）	784	86.1	85.1
	福島第一原子力3号（1976. 3. 27）	784	86.4	85.7
	福島第一原子力4号（1978. 10. 12）	784	57.3	56.3
	福島第一原子力5号（1978. 4. 18）	784	61.5	60.6
	福島第一原子力6号（1979. 10. 24）	1,100	68.9	67.6
	福島第二原子力1号（1982. 4. 20）	1,100	90.6	90.1
	福島第二原子力2号（1984. 2. 3）	1,100	85.3	84.3
	福島第二原子力3号（1985. 6. 21）	1,100	74.9	74.1
	柏崎刈羽原子力1号（1985. 9. 18）	1,100	73.8	72.9
中部電力	浜岡原子力1号（1976. 3. 17）	540	86.2	85.0
	浜岡原子力2号（1978. 11. 29）	840	70.2	68.2
関西電力	美浜1号（1970. 11. 28）	340	78.4	77.1
	美浜2号（1972. 7. 25）	500	81.1	79.9
	美浜3号（1976. 12. 1）	826	76.8	76.6
	高浜1号（1974. 11. 15）	826	61.3	60.5
	高浜2号（1975. 11. 14）	826	60.1	59.4
	高浜3号（1985. 1. 17）	870	96.8	96.7
	高浜4号（1985. 6. 5）	870	80.7	80.0
	大飯1号（1979. 3. 27）	1,175	53.2	51.2
	大飯2号（1979. 12. 5）	1,175	88.0	85.8
中国電力	島根原子力1号（1974. 3. 29）	460	78.3	77.7
四国電力	伊方1号（1977. 9. 30）	566	80.4	79.2
	伊方2号（1982. 3. 19）	566	81.5	80.8
九州電力	玄海原子力1号（1975. 10. 15）	559	69.3	57.4
	玄海原子力2号（1981. 3. 30）	559	84.8	83.4
	川内原子力1号（1984. 7. 4）	890	90.9	89.8
	川内原子力2号（1985. 11. 28）	890	81.2	80.0
合 計		25,681	76.9	75.7

（注）1. $\text{ユニット毎の時間稼働率} = \frac{\text{発電時間数}}{\text{暦時間数}} \times 100(\%)$

$$\text{設備利用率} = \frac{\text{発電電力量}}{\text{認可出力} \times \text{暦時間数}} \times 100(\%)$$

2. ※印の欄は当該発電所の運開初年度にあたり、運転開始以降の暦時間数に基づく時間稼働率及び設備利用率を計上してある。

$$\text{合計欄の時間稼働率} = \frac{(\text{認可出力} \times \text{発電時間}) \text{の合計}}{(\text{認可出力} \times \text{暦時間}) \text{の合計}} \times 100(\%)$$

（平均時間稼働率）

（平均時間稼働率とは出力按分をしたものである。）

（出典）原子力安全委員会（編）：昭和62年版 原子力安全白書 大蔵省印刷局